

第31回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦

開催日時 6月18日(月)

会場 阿須運動公園ホッケー場

天候 晴れ

【全試合結果】

<阿須運動公園ホッケー場>

第1試合 10:00	女子 準決勝	駿河台大学	0	{	0 - 2 0 - 3	}	5	天理大学
第2試合 11:40	女子 準決勝	山梨学院大学	2	{	0 - 1 2 - 1	}	2	東海学院大学
			SO		3 対 4			
第3試合 13:20	男子 準決勝	立命館大学	0	{	0 - 0 0 - 0	}	0	早稲田大学
			SO		0 対 3			
第4試合 15:00	男子 準決勝	明治大学	2	{	2 - 1 0 - 2	}	3	天理大学

【各試合の結果・詳細】

阿須・第1試合 女子準決勝

駿河台大学 0 { 0 - 2 } 5 天理大学

<得点>

駿河台大学

天理大学

1分・#12森 33分・#5高木 39分・#7打田 54分・#8山中 70分・#9笠原

<戦評>

大会三日目、決勝の切符を賭けた試合が阿須グラウンドにて行われた。試合は開始早々にいきなり動く。1分に#12森が電光石火の一撃で、先取点を奪うことに成功し、このまま天理ペースで試合が進むと思われたが、駿河台も右サイドを使いながら、落ち着いてゲームを進める。この膠着状態を先に破ったのは天理大学。21分にサークルで粘りPCを獲得し、#8山中が強烈なヒットでゴールを狙うも、わずかに左にそれ、得点をあげることができない。さらに天理は23分にもPCを奪うと、今度は#8山中のプッシュからタッチシュートを狙うもこれもわずかに噛み合わない。対する駿河台は高い位置からプレッシャーをかけ、敵のゴール前に詰め寄るも、こちらもあと一歩攻め手を欠き、なかなか攻めきることができない。すると天理は30分に#7打谷がゴール前で決定的チャンスをもかえるも、ミートせずシュートを枠に飛ばすことができない。しかしそのまま攻め込み、33分に右サイドを完全に突破し、最後は#5高木が合わせ、貴重な2点目をあげる。前半はこのまま天理の2点リードで終了し、駿河台大学のセンターパスにより後半が始まる。後半先にチャンスを作ったのは、天理大学。39分にPCを奪い、それをスイープで打ち込むと、リバウンドを#7打谷が詰め、後半も早い時間に得点をあげる。その後も天理は立て続けにPCから追加点を狙うが、ここは駿河台の集中したディフェンスで簡単にはゴールを割らせない。さらに駿河台は打ち込みでゴール前にボールを提供するも、触ることができずにいると、ここから再び天理ペースに。すると54分に再びPCから#8山中が押し込み、4点目をあげる。さらに終了間際にもPCから得点をあげ、終わってみれば5-0と駿河台を圧倒する結果となった。この瞬間、天理大学は決勝進出を決め、悲願の優勝まであと一つとなった。

TO	清水恭子	アンパイア	石橋徹也
ジャッジ	櫻本千恵子		谷川昌子
		サジェスチョン	小原直也
		アンパイア	渡邊道彦

阿須・第2試合 女子準決勝

山梨学院大学 2 { 0 - 1 } 2 東海学院大学

<得点>

山梨学院大学

東海学院大学

37分・#10田中 63分・#10田中

20分・#4義浦 51分・#7市山

SO 3 対 4

<戦評>

全日本大学王座決定戦女子準決勝のこの対戦カードは、昨年にもあり、その試合では山梨学院大学が3-1で東海学院大学を下している。会場に緊張した空気が漂う中、東海学院大学のセンターパスにより試合が開始した。フィールドを広角に活かしたボール回しからロングボールを繋いだ速攻をみせる東海学院大学に対して、山梨学院大学はボールを小刻みに繋いだパスワークを活かす攻めをみせる。前半8分に東海学院大学が打ち込みからタッチシュートを狙うもGKに阻まれる。対する山梨学院大学も前半9分に#19佐藤が強烈なヒットシュートを放つがGKにセーブされ、互いに一歩も引かない均衡した試合展開となった。前半20分、サークルトップでフリーでボールを受けた等相学院#4義浦がリバースヒットをゴール右ポストに決めて、見事に先制点を獲得した。その後も、激しい攻防が続いたがお互いにサークルの侵入を許さない試合展開が続き、そのまま得点が動くことなく前半が終了した。

後半は山梨学院大学のセンターパスで開始された。開始直後に山梨学院大学が左サイドから一気に攻め上げてサークル内に入るとこの試合初のPCを獲得した。これを山梨学院#10田中がゴール右上へフリックシュートを放ち同点に追いつく。勢いに乗る山梨学院は左サイドから攻め上げて再びPCを獲得するが、これは得点には繋がらなかった。後半16分、東海学院#15浅海がサークル内からボールをカットすると、#15浅海のアシストボールを#7市山が押し込み再び東海学院がリードする。後半18分、山梨学院が左サイドからまたもやPCを獲得するも、東海学院がチャレンジ権を行使してサジェスチョンアンパイアに再判定を求めたが、判定は覆ることはなかった。しかし、東海学院はこのPCでのリバウンドをクリアして同点に追いつかせない。後半23分に東海学院にチャンスが訪れた、サークル内で東海学院#3がGKと1対1になったが、GKがファインセーブを魅せる。その後、後半26分に山梨学院がPCを獲得すると、またもや山梨学院#10田中がフリックをゴール左下に突き刺し、試合をふりだしに戻す。その後は東海学院が猛攻撃を仕掛けるが、山梨学院はサークル手前で攻撃を食い止める。東海学院がこの試合でPCを獲得することは無く、スコア2-2のまま試合の決着はPSO戦にもつれ込んだ。

東海学院大学が先攻でPSO戦は始まった。しかし、いきなり山梨学院GK#3の好セーブに阻まれる。対する山梨学院は1番手と2番手が落ち着いてGKを右抜きでかわして決めて優位を保つ。だが、東海学院の2番手と3番手もループシュートと右抜きでしっかりと決めていく、そして山梨学院3番手のリバースシュートが外れてしまい、同点になるも、東海学院4番手がGKのスティックに止められる。決めれば一気に優位に立てる山梨学院だが、4番手がGKのスティックに止められて結局ふりだしに、勝負の行方は5番手に託された。東海学院5番手は巧みなドリブルと左抜きでGKをあっさりとかわして決めると、山梨学院5番手も負けじとリバースヒットで豪快に決めた。PSO戦はサドンデス戦にもつれこむ。サドンデス戦の先攻は変わって山梨学院、いきなりGKの好セーブに阻まれてしまい、東海学院大学にチャンスが訪れる。そしてこれを巧みなドリブルでGKをかわして決め、東海学院大学が決勝戦進出を決めて昨年の敗戦を払拭した。

TO	野澤光代	アンパイア	塚本善士
ジャッジ	竹内芳郎		我妻順子
		サジェスチョン	大西揚士
		アンパイア	木下英貴

阿須・第3試合 男子準決勝

立命館大学 { 0 - 0 } 早稲田大学
SO 0 対 3

<得点>
立命館大学
早稲田大学
<戦評>

早稲田大学のセンターパスによって早稲田大学対立命館大学の準決勝の試合が開始された。開始からハイスピードな激しい攻防が展開される。早稲田大学はフィールドを広角に使ったパス回しからボールを繋いでいくが、対する立命館は引いて守ってから高速のカウンターを仕掛けて対抗する。早稲田のパスワークは、立命館のラインを下げて守る布陣に苦戦してなかなかFWにボールが行き渡らなく、立命館#1藤吉の高速ドリブルによるカウンターで序盤から幾度かゴールを脅かされる。しかし、早稲田#1森川の好セーブもあり得点を許さない。しかし、早稲田はMFにボールが渡っても、立命館のラインを下げて守る布陣で人数を掛けられて奪われてしまうシーンが多くみられ苦戦を強いられる。その一方立命館はカウンターで一気に攻め上げて得点チャンスのシーンを多く演出するが、得点には繋がらない。そんな中、前半20分に立命館#3川瀬が強烈なヒットシュートを放つも、これも早稲田#1森川が好セーブを魅せる。前半28分、立命館#1藤吉が高速ドリブルで一気に右コーナーから駆け上がりサークルに進入するとPCを獲得、早稲田は必死にシュートを防いでクリアするも、そのクリアボールを拾われ幾度もゴールを脅かされるも、得点だけは許さない。前半32分に、早稲田が打ち込みからタッチシュートでの得点を狙うも、あと1歩で噛み合わずに得点が出来ず、0-0のまま前半が終了する。

後半に入っても試合の運びは変わらない。立命館は後半の5分と6分にPCを獲得するも得点出来ずにいた。後半戦になると徐々に早稲田に疲れが見え始める。そして、立命館は徐々に引いていたラインを上げていき、立命館が猛攻撃を仕掛ける時間帯が続くようになる。しかし、それでも早稲田は全員守備で粘り得点を与えない。後半30分、立命館#1藤吉にスピードで突破されPCを取られ、立命館#5伊藤が強烈なフリックを放るが、これも早稲田#1森川の好セーブによって阻まれる。そしてラスト2分、またしても立命館がPCを獲得するが、早稲田がチャレンジ権を行使してサゼスチョンアンパイアに再判定を求めたところ、PCの判定からLCの判定に覆った。そして、スコア0-0のまま試合の結果はPSO戦に持ち越された。

PSO戦の先攻は早稲田、#10田村がGKを大きく左にかわしてそのままリバースで決める。後攻の立命館、#11渡部はGKがボールを弾いてそのまま時間切れで失敗する。2番手の早稲田#13羽田はドリブルで勢い良くかわそうと試みるもGKのスティックに止められてしまい失敗、立命館#8堀江は近距離からハイプッシュを放り込むがGKがおセーブし失敗。そして3番手、早稲田#5宮田はサークルインの瞬間に豪快にヒットシュートを決める。後攻の立命館#7佐々木はドリブルでかわしにいくがこれもGKのスティックに阻まれる。そして、4番手の早稲田#6小野田がループシュートを華麗に決めて、早稲田GK#1森川の冴え渡るセーブもあって決勝進出を決めた。

TO	馬場治男	アンパイア	水谷吉男
ジャッジ	櫻本千恵子		戸塚洋介
		サジェスチョン	石橋徹也
		アンパイア	谷川昌子

阿須・第4試合 男子準決勝

明治大学 2 { 2 - 1 } 3 天理大学
0 - 2

<得点>
明治大学 12分・#10安部 32分・#10安部
天理大学 29分・#5甘利 44分・#12星 67分・#9落合
<戦評>

本日最終試合、決勝の舞台を賭けた試合が阿須グラウンドにて明治のセンターパスにより行われた。天理のPC獲得からこの試合初めての攻撃チャンスが生まれると、このPCをコンビネーションから強烈なフリックを放つも、惜しくも右上に外れ得点とならない。対する明治は個人技を生かし、攻めに転じると、12分に#10安部が中から左に切り込み最後は強烈リバースヒットを打つ。これが見事天理ゴールに突き刺さり、待望の先制点をあげる。このままでは終われない天理は、直後に明治ディフェンダーを攻めたてシュートを打つも、ポスト直撃となり惜しくもゴールとならない。しかしこのシュートから徐々に天理がペースを握ると、22分にPCを獲得し、これを#3下市がフリックを放ち、さらにそのこぼれ球を#5が詰め得点のチャンスを作ると、29分に#5甘利の突破から最後はリバースヒットで敵のゴールをしとめ同点とする。だがこれに動じない明治は32分にPCを奪うと、#10安部がうまく軌道を変え再び勝ち越しに成功する。このまま明治のリードで前半を終え、後半に入る。後半も天理のPC獲得からゲームが展開されると、勢いそのまま天理が明治を攻めたてる。すると44分、左サイドから放たれたボールを#12星が合わせ、2-2とゲームを振り出しに戻す。さらに天理は46分にPC、53分にはリバースヒットで明治ゴールに襲いかかる。しかし明治も集中したディフェンスで簡単にはゴールを割らせない。そんな展開のなか、天理は60分に#3下市がPCからスイープ、フリックと立て続けにゴールを狙い得点の予感を感じさせると、68分に#9落合がついにゴールを決め、逆転に成功する。追いつきたい明治は終了間際にPCを奪い、土壇場で同点のチャンスを得る。天理の絶対的なピンチだったが、ここは気持ちの入ったディフェンスで見事に凌ぎきり、試合終了。天理は常に明治を追う展開となったが、見事に勝利をおさめ、明日の決勝へと駒を進めた。

TO	竹内芳郎	アンパイア	近藤聡史
ジャッジ	清水恭子		小原直也
		サジェスチョン	塚本善士
		アンパイア	我妻順子